

氏名	林原 千夏
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5668号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Confidence in communicating with patients with cancer mediates the relationship between rehabilitation therapists' autistic-like traits and perceived difficulty in communication (がん患者とのコミュニケーションにおける自信はリハビリテーション療法士の自閉様特性とコミュニケーションの自覚的困難さとの関係に介在する)
論文審査委員	教授 小林勝弘 教授 荻野景規 教授 千田益生

学位論文内容の要旨

近年、リハビリテーション療法士ががんリハビリテーションに関わり始めているが、がん患者に対して情緒的支援を提供するためのコミュニケーションスキル訓練法は未だに開発されていない。更に、療法士のコミュニケーションスキルと、生まれながらのコミュニケーションの困難さや独特のスタイルを特徴とする生まれながらの自閉様特性との関連についても明らかとなっていない。そこで、本研究では自閉様特性の高い療法士のがん患者とのコミュニケーションの困難さをコミュニケーションの自信が介在するか否かを調べることを目的とした。

がん患者の治療に当たるリハビリテーション療法士を対象として自記式質問紙を郵送し、匿名で回答を得た。自閉様特性は Autism-Spectrum Quotient 短縮版、コミュニケーションの困難度は数値目盛り尺度にて測定した。1343名(回答率49.6%)から回答を得た。自閉様特性はコミュニケーションの困難度と有意に関連し、コミュニケーションの自信はその関連に介在していた。しかし、支持的な場の設定に関する自信の高さは困難度の高さと関連していた。

支持的な場の設定以外のコミュニケーションに関する自信を高めることで、自閉様特性に関連するコミュニケーションの困難度を下げる可能性が示唆された。自閉様特性が高い療法士を対象としてがん患者とのコミュニケーションの自信を向上させるスキル訓練法を今後開発する必要がある。

論文審査結果の要旨

リハビリテーション療法士が、がんリハビリテーションに関与するようになってきているが、がん患者に対して情緒的支援を提供するためのコミュニケーションスキル訓練法は未だ開発されていない。また療法士のコミュニケーションスキルと生来の自閉様特性との関係も明らかではない。

本研究では、療法士の自閉様特性の程度とがん患者とのコミュニケーションの困難さの間に、コミュニケーションの自信が介在するかどうかを調査するため、がん患者の治療にあたるリハビリテーション療法士に自記式質問紙 Autism-Spectrum Quotient 短縮版(AQ)を郵送し、匿名で1343名から得たアンケートを分析した。その結果、療法士の自閉様特性はコミュニケーションの困難度と有意に関連し、コミュニケーションの自信はその関連に介在していることを明らかにした。

委員からは自記や自信での評価は客観的評価とどれだけ一致するのか、悪い知らせの伝え方は自信をつけ支持的な場の設定はそうしないというトレーニングは現実に可能なのかという質問があり、本研究では AQ は自閉スペクトラム症のスクリーニングに用いられているため客観的評価との一致度は高いと想定されること、トレーニングはいくつかの項目のセットとして実施することで目的を達成できると考えられることを回答した。

本研究は、リハビリテーション療法士の自閉様特性の程度とがん患者とのコミュニケーションの困難さの関連について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。